



大淀中だより

学校教育目標 「自主・自律の態度と共生の心を育成する」

京都市立大淀中学校

学校だより

令和7年(2025)11月28日

校長 塩見 登

全国学力・学習状況調査の結果

4月15日(火)・17日(木)、全国の3年生を対象として実施されました「全国学力・学習状況調査」についての結果と考察を報告します。この調査は、国語・数学・理科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されています。

■国語

すべての領域において、正答率が全国平均と比べ下回っています。特に、「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「思考力・判断力・表現力等」の「話すこと・聞くこと」に関する事項、「書くこと」に関する事項において、全国平均との間に顕著な差が見られました。問題別では、書くことに関して「ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する」・「手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する」問題、話すこと聞くことに関して、「『話の順序を入れ替えた方がよい』という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する」問題が特に大きく全国平均を下回っていました。しかし、「ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く」問題や「手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く」問題では、全国平均並み、もしくは、全国平均を上回る正答率が見られました。

(今後の改善点)

上記の結果より、現状として、自分の意見や考えを文章化して表現する力は養われている一方で、言葉の意味や用法が定着しておらず、複数の選択肢を比較し、より適切な表現を判断する力が十分にはついていないことが考えられます。つまり、定着している語彙の中で自分の考えを表現することはできるものの、明確に使用できる語彙自体は少ないという状況であると言えるでしょう。このような現状を踏まえ、漢字や文法の知識的な定着だけではなく、言葉そのものや慣用句などについての知識についても、判断や表現に使用できる語彙として蓄えていくことに意識を置いた指導を展開していきます。

■数学

「知識及び技能」の「確率(じゃんけん)」、「思考力・判断力・表現力等」の「図形の証明(平行四辺形)」に関する問題において、全国平均との間に顕著な差が見られました。

以下2項目の問題については、全国平均並みの正答率が見られました。

関数領域の

「一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかをみる」

「事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる」

生徒質問紙において、他教科と比較をしたところ、「数学に関する意識」が高いことが分かりました。このことから、数学が苦手な生徒も得意な生徒も、今の自分の学習状況をきちんと把握していることが分かりました。

(今後の改善点)

上記の結果より、現状として、基礎基本の計算方法や文字式等を用いた表現方法が定着しておらず、問題や課題に対して、どのように解決すればよいかを判断できていないことが考えられます。つまり、普段の授業の計算問題や解き方を学校で習得できていたとしても、学習の定着ができておらず、「解法を忘れている」もしくは「解法がわからない」という状況であると言えるでしょう。このような現状を踏まえ、基礎基本の数学的な課題については、「解き方を説明できる」ということを日々の授業で意識し、学習のさらなる意識の向上と学習状況の定着を図り、発展的な課題については「どんな解き方が考えられるか」、「既習事項の何を用いたら解くことができるか」という見方を働かせる授業を展開し、小さいステップを踏んで、課題解決できる経験値を蓄えていくことに意識を置いた指導を展開していきます。

■理科

全ての領域において、正答率が全国平均を下回っている状況です。観点別にみっていくと、知識技能の観点は特に顕著に表れています。しかし、思考力は全国・京都府平均と比べあまり差はなく、特に「加熱をともなう実験

において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する」では全国平均より2.8%、京都府平均よりも4.2%高い結果となりました。また、「実験ではなぜ水道水ではなく精製水を使うのか」という問題では京都府の平均よりも2%高い結果となりました。問題ごとに多少ばらつきはあるものの、領域別で見ると「粒子を柱とする領域」は全国・京都府平均と比べるとあまり差はない結果となっています。逆に、「生命を柱とする領域」ではかなり差が生まれる結果となっています。

(今後の改善点)

領域別に見てみると「生命を柱とする領域」は全国平均・京都府平均共に大きく下回っています。この領域では観点別で見たときに、知識技能の問題が多くなっています。全領域でも知識技能の観点が低いことから、知識の定着を優先すべきだと考えます。過去には問題集がありましたが、現在はデジタルに移行している関係で、反復練習があまり行えていないのではないかと考えられます。学期末テストや章末テスト前には問題冊子を配布しており、その内容に近い問題も出題していますが、そのテストでも知識技能の観点が低い傾向にあります。授業や家庭での勉強でもまずは知識の定着をはかり、反復練習を行える環境をこれからも意識的に作っていきます。逆に、思考・判断・表現は全国・京都府平均とあまり差はないことから、授業での活動が効果的であると考えられます。引き続き、授業を大切に行っていきます。

■生徒質問紙

「人が困っているときは、進んで助けていますか」の問いに対して、肯定的な意見が全国平均を上回っています。本校が取り組んでいる『自分だけよければいい』のではなく、『みんなが気持ちよく生活を送れるように』をテーマにしたPBIS（望ましい行動の強化）活動がこの結果に結びついていると考えられます。また、「将来の夢や目標を持っていますか」の問いに対しても、肯定的な意見が全国平均を上回りました。この気持ちを大切にして、夢や目標が実現できるように、残りの日々の学校生活、行事、授業における協同的な学びを通して、全力でサポートしていきます。しかし、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」という問いに対して、費やす時間が「1時間未満の生徒」「全くしない生徒」の割合が全国平均にくらべかなり多くなっています。進路実現に向けて、今、何をすべきかを理解し、すべきことに全力で取り組む意識が芽生えるよう『各自の目標』を設定し、ご家庭とも連携して、学習時間を増えるように取り組みたいと考えています。

～淀から世界へ(校長の独り言)～

“グアムにする？” “いやいやバリ島でしょ！” “海外より沖縄！” 大学卒業間近になると最後の思い出作りにまわりでは卒業旅行の話で盛り上がります。“塩見はどこがいい？” “う～ん。あんまり日本人がいなくていいなあ～” みんなの冷たい視線が刺さります。マレー半島縦断に続いて次なる刺激の国を密かに探していた私と友だちとは卒業旅行という点では少し意見の食い違いがありました。“ごめん～俺、一人で行くわ” みんなのさらなる冷たい視線が・・・ “どこ行くの？” “んっ。ベトナム” “何しに？” “ベトナム縦断、1,726 キロ 36 時間耐久鉄道の旅、かっこええやろ！” 冷たい視線からあきらめの視線に変わる瞬間でした。30 年前のベトナム。未知の国でした。戦争・社会主義・ドイモイなど少ない知識のまま、US ドルを握りしめて一人ベトナムへ。未知の国へ降り立つときのドキドキがたまらない。恒例のぼったくりとの交渉も楽しみだ。空港で早速ぼったくり青年登場。“どこ行くの？” “バイクタクシー安いよ？” “どこから来たの？” どんどん質問攻撃が始まります。そして、自分が怪しい人間でないことを証明するために今まで世話をしてきた外国人の写真を見せてきます。みんな手口は一緒です。騙されてなるものか。けど、どこまでもついてくる彼の目はすごくピュアに感じてきます。うっとうしいという気持ちから騙されてもいいかなと・・・ 試みに “チープホテルに連れて行って！” 顧客を得た青年は満面の笑顔です。ノーヘルメットのバイクの後ろにつかまり、チープホテルに連れて行ってくれました。彼は、翌朝ホテル前で私を待ち構えています。釣った魚は逃さない作戦です。彼を信じることにしました。2 日目も 3 日目も彼があらゆる観光地に連れて行ってくれました。そして、ハノイ最終日の夜。“家でごちそうする” と言い出します。すっかり仲良くなった彼を信じるべきか悩んだあげくバイクの後ろにまたがり恐る恐るついて行きます。暗闇の中にあった彼の小屋は、スラム街にありました。弟と妹の面倒を見ている彼の姿、そして日本からの見知らぬ旅行者にご飯をごちそうする彼の姿に感動したのを覚えています。30 年前のベトナムには昭和の日本を感じました。余談ですが、最高においしかったベトナム料理のおかげで成田空港の保健所から病院へ直行。体内に変な虫が入っていたのもいい思い出です。次回は、サラリーマン金太郎への道の独り言の予定です。今年度中にジンバブエまでたどり着きません！